

## 第10回 HALS グループミーティングを終えて

### ～ 次の10年へ向けて ～

第10回 HALS 研究会が無事に開催できましたこと、深く感謝申し上げます。開催にご協力いただいた関係の皆様、特に、当番世話人が開催地から遠隔に勤務するため、開催に至るまでの様々な手続きや連絡を担っていただいた事務局の木島様、本当にありがとうございました。

今回、第10回ということもあり、回を重ねた研究会の成果として、『HALS は市民権を得たか』をテーマとさせていただき、HALS 技術の成果と今後の広報について検討いただきました。当科から演題発表をさせていただいた若手の先生達は、ハンズオンセミナーにも参加し、今まで自院でしか見ることのできなかった HALS 手術が、全国で実施されていて、様々なところで応用されていることに刺激を受けて帰って来たようです。

では、テーマであった HALS の市民権に関しては、どうであったでしょうか？ 私個人で辛口の評価をすると、まだまだ従来の内容と変わり無かったように感じました。私の力不足で今回は参加者も少なく、限られた研究会の時間内に発表できる演題数にも限界があり、且つ、議論を掘り下げる時間が足りなかったようです。その分懇親会に持ち越した部分はありましたが、不完全燃焼感を否めません。しかし、会の最後に出た「臨床外科学会などに発表してゆく」という提案は、建設的なものと感じました。大きな学術集会での発表が少ない割には、あちこちで様々な分野で応用されている技術でもあり、情報共有のための最初の一步として重要であると考えます。

来年は広島での開催。東京を離れての初めての開催になるとのことで、気分を変えて、また異なった視点でのテーマや発表が聞けることを大いに期待したいと存じます。ローマ法王が訪問された地に、世界平和と HALS の発展を祈念しに是非駆けつけたいと思います。

2019年10月19日

第10回 HALS グループミーティング当番世話人

福島労災病院外科 武藤 淳

## 第10回 HALS グループミーティング開催風景



昨年度に引き続き HALS ハンズオンセミナーを開催



「HALSは市民権を得たか？」という興味深いテーマのパネルディスカッションも開催



第 10 回 HALS Group Meeting 「優秀演題賞」  
受賞者は角田圭一先生（福島労災病院 外科）  
演題名 「外科専攻医としての HALS 結腸切除の経験」

次点：中原雅浩先生（JA 尾道総合病院 外科・内視鏡外科）  
演題名 「大腸癌に対する HALS(Hand Assisted Laparoscopic Surgery)の意義  
-市民権は得たか?-」

次点：渡邊淳一郎先生（福島労災病院 外科）  
演題名 「大腸手術における病変部位による HALS の適応」

プレゼンターの板橋道朗先生（代表世話人） 武藤 淳先生（第 10 回当番世話人）と